

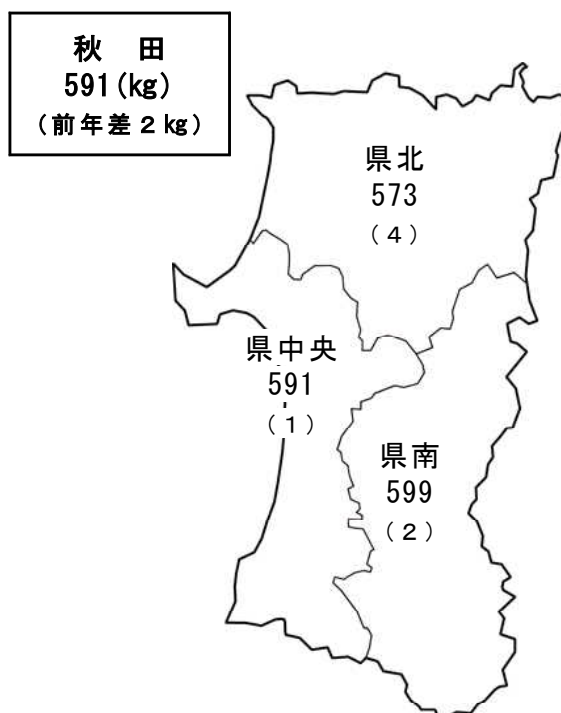
## 平成28年産水稻の収穫量（秋田）

— 水稻の10a 当たり収量は591kg（前年産に比べ2kg増加） —  
収穫量（子実用）は51万5,400 t

## 1 作付面積

平成28年産水稻の作付面積（子実用）は8万7,200haで、前年産に比べ1,500haの減少となった。このうち、主食用作付面積は6万9,300haで、前年産に比べ1,900haの減少となった。

作柄表示地帯別10a 当たり収量



## 2 作柄概況

水稻10a 当たり収量は、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が「平年並み」となり、出穂期以降、おおむね気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬以降も気温が平年を上回り、登熟（開花、受精から成熟期までの子実の肥大、充実）が「やや良」で、591kgとなった。

## 3 収穫量

以上の結果、収穫量（子実用）は51万5,400 t で、前年産に比べ7,000 t の減少となった。このうち、主食用の収穫量は40万9,600 t で、前年産に比べ9,800 t の減少となった。

## 4 被害概況

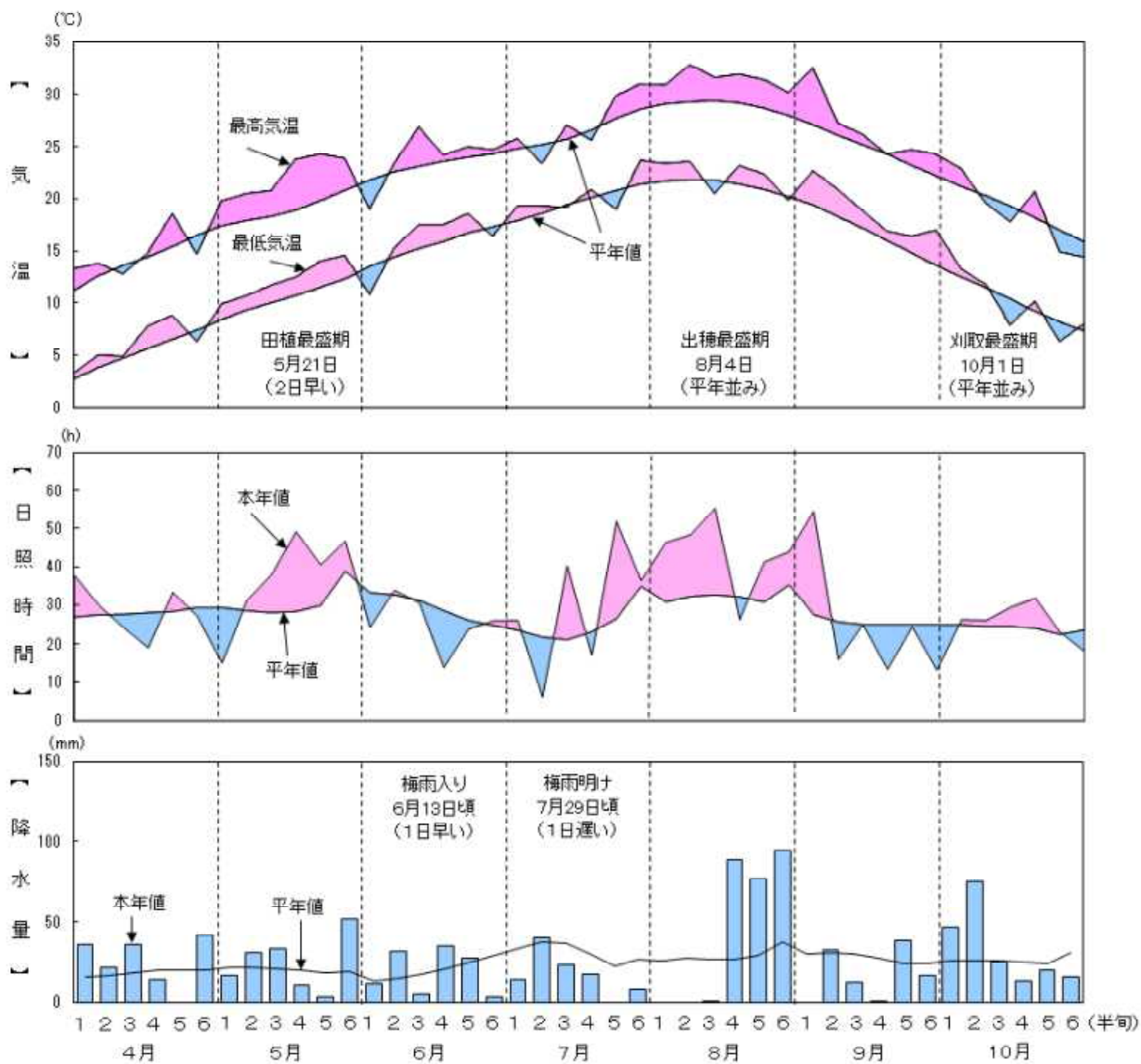
被害量は2万6,100 t となった。

被害種類別にみると、気象被害が2万2,600 t（被害総量に占める割合87%）、病害が2,460 t（同9%）、虫害が966 t（同4%）となった。

- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。
- 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

【参 考】

平成28年半旬別気象図(秋田)



資料：気象庁ホームページより

注：1 田植期、出穂期及び刈取期の最盛期は、県平均の期日である。

2 ( ) 内の日数の遅速は、対平年差である。

お問合せ先

東北農政局 秋田県拠点 統計チーム  
電 話 : 018-895-7303 内線457  
F A X : 018-823-1222